

岡崎市社会資本整備総合交付金

「新世紀岡崎 衛る水のみち構築計画」中間評価 議事録

日時：平成 30 年 2 月 7 日（水） 14：20～

場所：岡崎市役所 東庁舎 5 階 503 号会議室

出席者

（評価委員）

委員長：愛知産業大学学長 堀越 哲美 氏

委 員：日本政策投資銀行業務課長 奥村 朋久 氏

委 員：愛知工業大学工学部教授 松本 壮一郎 氏

委 員：名城大学理工学部教授 松本 幸正 氏

欠席者

（評価委員）

委 員：豊橋技術科学大学 井上 隆信 氏

（事務局）

岡崎市総合政策部企画課係長 植村

岡崎市総合政策部企画課事務員 藤井

岡崎市上下水道局下水工事課係長 権田

岡崎市上下水道局下水工事課技師 垣本

（傍聴人）

なし

事務局	（「新世紀岡崎 衛る水のみち構築計画」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
委員長	ストックマネジメント計画の策定の進捗について、パーセンテージで表すのは難しいと思うがどのように出しているのか。
事務局	国の示すガイドラインでは、基本方針として、管渠とポンプがある。まずは管渠に関して2月中に県を通じて提出する。ポンプについては、経過観察もあり、来年度以降の策定となることから、50%としている。
松本（幸）委員	当初目標で、「③管渠の耐震化対策」と「⑤災害対応トイレ整備」の最終目標値が低いと感じた。もっと高くても良いのでは。これは別計画へ切り出すのがわかっていたから低いのか、低いから切り出したのか。この辺りはもっと早く進めなくてはならないと感じるのだが、どんな展望を持っているか。
事務局	本来は、浸水対策や未普及解消とともに進めていきたいが、経営面を考えるとなかなか進まない。実際に達成できるものにしなければならないので、確実に行える範囲をわかりやすく、最終目標値にしている。来年度以降は重点計画へ位置づけ、少しでも多く整備をできればと考える。
委員長	管渠の長寿命化で、ガイドラインが改訂されたという話だが、この辺はいかがなのか。管内をコーティングしたり、仕様が変わったり等の話なのか。
事務局	長寿命化計画では、コンクリート管の耐用年数を50年で考え、更新・改築としていたが、今回の更新・改築の100周期で考えることによって、長寿命化計画からストックマネジメント計画への改訂は、単純に改築・更新を進めるのではなく、より長期的スパンでの持続可能な改築・更新計画の策定が求められている。そのため更生工法で施工を行った方が良いのか、新たな管渠を築造した方が良いのかスケールメリットを図る必要がある。
委員長	既存管渠の横に新しい管渠を入れると、費用が結構かかる気がするが。
事務局	おっしゃる通りです。長期的なスパンで考えると、更生が良いのか更新が良いのかという議論もある。実際、現場では、道路の交通量、管渠の布設状況や汚水の量で管の劣化速度も変わってくる。それらを踏まえて、工法を考えなければいけない、加えて、事業費の平準化にも努め事業を推進する必要がある。

【結果】

この中間評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。